

## 日本再興戦略ースーパーグローバルハイスクール指定校（SGH）茨城県立土浦第一高等学校とマレーシア工科大学/MJIIT 連携交流事業展開（筑波大学サテライトオフィスを拠点として研究交流開始）

平成 27 年 8 月 18 日～19 日の 2 日間、筑波研究学園都市に隣接する土浦市から茨城県立土浦第一高等学校(以下、土浦一高)がマレーシア・クアラルンプールにキャンパスを置くマレーシア・日本国際工科院 Malaysia-Japan International Institute of Technology（以下、MJIIT)で筑波大学の指導のもと「世界の仕組みを理解し、課題を見つけ、他者の立場を尊重し、解決に導く決断ができる人」を主方針とし、研究事業を開始した。なお、この文部科学省プロジェクトは 5 年間実施することになっている。参加者は、土浦一高関係者として豊島卓先生、大野岳志先生、松本穂高先生、沼口美雪先生、生徒 40 名、筑波銀行から岩本良夫氏、損保ジャパン日本興亜から佐々木剛氏、マレーシア側は、主に筑波大学サテライトオフィス杉浦則夫教授、岩本浩二准教授、MJIIT 石崎浩之講師、グループアシスタント 11 名であった。

土浦一高教諭の豊島卓先生は、開始時の挨拶で特にグローバル人材、すなわち生物資源に恵まれた地元茨城の良さを伝えることができ、将来グローバルに活躍できる財産としての人を实践でそだてていきたいと強調されていた。ワークショップでは、まず講義として霞ヶ浦（グローバル研究）をテーマとし杉浦教授から、そしてビジネス関連の展開について石崎講師から話があり、質疑応答では、研究のきっかけ、必要性、発信の方法、社会への実践的応用など随所に気迫あるやり取りができた。その後、自分たちの課題研究テーマに関連した内容で各グループに分かれ、実際に市場調査に移った。調査では、茨城県に関わる産業、霞ヶ浦や休耕地など特性利用、宇宙開発ロケットの燃料省エネ化などを課題とし、マレーシア市民との直接対話による考え方、相互理解、受容の可能性等のインタビューを実施し、その後、各グループがまとめを発表し、ノウハウの移転と市場展開その可能性を探った。従来の表面的な国際交流事業とは異なり、トランスボーディングを踏まえ、日本・マレーシア国間のローカルからローカルへのまさに実質的に新しい時代を担うグローバルリーダー育成に相応しい戦略的な計画が実施された。

（文責：杉浦則夫特命教授）



講義の様子



ディスカッション 1



ディスカッション 2



グループ発表の様子



ランチミーティング（写真右：杉浦則夫特命教授）



MJIIT の学生たちとの個別文化交流